

## ロータリーの歴史から学ぶ

### 3. Guy Gundaker から学ぶロータリー

#### 4) 会員に対するロータリークラブの義務と責任

本項の「会員に対するロータリークラブの義務と責任」とは、クラブ奉仕の在るべき姿を述べたものと言ってよいでしょう。当然、会員同士の親睦、例会、各種行事についての解説が主たる内容ですが、それらを計画立案して実施する委員会、理事会、特に会長の義務と責任の重さを強調していることが大きな特徴です。Guy Gundaker は、クラブ行事、特に例会の充実こそがロータリーと社会の発展に繋がり、その責任者こそが会長であると考えているのです。



#### <1>クラブ・リーダーは、クラブの問題点を見つけ、改善していかなければならない

Guy Gundaker は、本項の冒頭で「ロータリークラブは、クラブや会員の現状を省察し、どうすれば理想的なクラブに発展するかを考えなければなりません」と述べています。つまり、現状に満足せず、むしろ現状に問題点を見つけ出し、かつ改善していくこと。それは、「会員に対するロータリークラブの義務と責任」であって、ロータリーが掲げる国際的理想を達成するには、こうした不断の努力がクラブ・リーダーに必要だと強調しているのです。

21世紀に入った今日、戦略委員会などの必要性が話題になっていますが、既に Guy Gundaker が「クラブの義務と責任」として強調していたのです。

#### <2>クラブ・リーダーは、「親睦」の意義を会員に正しく理解させなければなりません

Guy Gundaker は、クラブや会員の現状における問題点になりやすいものとして、最初に「親睦」を採り上げています。すなわち、会員同士の親睦を重要視するあまり、「ロータリーの良き親睦こそが、ロータリーの全てである」という考えを持つ人が少なくないことを問題視したのです。

彼は、「ロータリーという苗木が成長するために、その根に栄養を与えてくれる土壌こそが“ロータリーの親睦”である」と考えていました。言い換えれば、「苗木に栄養を与える土壌（親睦）は大事ではあるが、本当に大事なものはロータリーという苗木である」ということです。

その「ロータリーという苗木が成長するための良い土壌」である親睦を作り出すものとして、彼は次の7つを挙げています。

#### <ロータリーの良き親睦を作り出すもの>

1. 真心のこもった握手
2. 姓ではなく、名前で呼び合うこと
3. 歌の合唱を行うこと
4. ウィットやユーモアに富む言動
5. 会員間の思いやり、親切な行為
6. (議長、会員、招待者などに対する) 礼儀正しさ
7. 実業家たるロータリアンに相応しい紳士の振舞いと思慮深さ

ここで言う「4. ウィットやユーモアに富む言動」というのは、相手に好意を感じさせるように、或いは自らを印象づけるように、さらには例会での交友が楽しくなり、例会出席が向上するような言動を、ウィットやユーモアを交えながら行うようにということです。日本人には、少し難しいかも知れませんね。

### < 3 > クラブ・リーダーは、「例会」や「行事」の在り方に留意しなければならない

次に Guy Gundaker は、ロータリーの例会について、「会員の入会・退会が相次ぐようでは、例会に出席するだけの魅力や価値がない証拠である」と述べています。また、クラブの行事については、娯楽的な内容のものよりも教育的、経営的観点からの内容を優先させるべきだと述べています。もちろん、「旅行会、演奏会、家族会などの娯楽的行事があってもよいが、それらの内容は、あくまでロータリークラブの行事として妥当なものであるべきだ」というのが彼の考えです。

要するに、Guy Gundaker は、限りある少ない時間（会合や行事）を有意義なものにすることを強く求めているのです。実際、「ロータリーの高邁な理想を実現させていくには、与えられた例会時間は如何に少ないかを考慮すべきだ」と、彼は述べています。最近、「ロータリーの例会は毎週ではなく、月2回の開催でもよい」などという考えが出てきましたが、これを聞いた Guy Gundaker は大いに嘆くことでしょう。

#### ① 例会全般について

Guy Gundaker は、クラブの例会を最も重要視しています。そして、「例会は、クラブ会員の向上、会員の事業の向上、そして『ロータリーの目的』の実現のためにこそ最大限に活用する場であって、それはクラブ会長の責任である」と強調しています。



#### ● プログラム委員会、理事会、会長の責任

そのためには、例会行事そのものが有意義であることはもちろん、時間配分や順序にも留意しながら、できるだけ多くの会員が参加できるような企画（『ロータリーの目的』暗唱、『ロータリー・ソング』合唱、表彰各種、会員またはゲストによるスピーチ、ロータリーの研修、テーブル・ディスカッションなど）を心がけるのが、プログラム委員会の役割であると述べています。もちろん、会員相互の認識と友情を高め合う親睦委員会、公共福祉の問題を担当する公共問題担当委員会（現在の社会奉仕委員会）などの協力も求めながら、こうした企画を事前に会長と良く検討し合うようにと推奨しています。

そして、例会が価値ある有意義なものとなるように、例会プログラムの年間スケジュールが計画立案される年度当初、そしてその具体的内容を決定する前月の理事会において、十分な審議を行うこと。その上で、これらの計画や審議の流れの中で、クラブ会長がリーダーシップをしっかりと発揮しなければならないと、Guy Gundaker は強調しています。しかも、理事が無関心であるからとか、委員が積極的でないからとかを理由に、この責務から会長は免れることはできないとまで言っているのです。

## ②昼食例会について

「通常1時間の昼食例会のうち、最初の半分は食事と親睦に使われてしまう。したがって、単純計算で年間52時間の昼食例会があるとすれば、『ロータリーの目的』実現のために最大限に活用できる時間は、例会后半の僅か26時間しかないのである」と、ここでも Guy Gundaker は、限りある少ない例会時間を有意義なものにすることを強く求めています。

### ●会員の未知の能力を引き出し、かつ理解し合う例会

Guy Gundaker は、「昼食会後半の年間26時間しかない行事は、会員の未知の能力を引き出し、かつ理解し合うために重要である」と述べた上で、「特に、卓話プログラムをこれに充てる場合、クラブリーダーは次の2つを考慮すべきである」と強調しています。すなわち、

#### 1. クラブ会員またはゲストスピーカーによる卓話プログラム

Guy Gundaker は、クラブ会員またはゲストスピーカーが自分の仕事の話をする卓話プログラムの重要性を説いています。その場合、彼は「ゲストスピーカーのスピーチは、ロータリアン会員にとって有益であることは言うまでもない。しかし、クラブの会員自身のスピーチは、それ以上に有益であり、それを聴ける機会こそロータリークラブ会員の大きな特権の1つである。なぜなら、クラブ会員たるスピーカーは同業者の存在を気にすることがないだけに、正直に真実を語るができるし、会員に役立つことを大いに教えることができるからである」と述べています。

#### 2. ロータリーを学ぶための卓話プログラム

Guy Gundaker は、ロータリーの理解を深める話（ロータリー研修）だけを目的とした「特別昼食会」の重要性も説いています。すなわち、少なくとも6週間に1回は「特別昼食会」を開き、ロータリー情報委員会が担当した上で、ロータリーの原理を再検討し、深め合う卓話プログラムを求めているのです。その際、司会者を交代制にしたり、意見交換会をしたりなど、色々な人に発言させることで会員の成長を促すことも推奨しています。また、近隣のクラブとスピーカーを交換して開催することも推奨しています。

実は私のクラブ会長時代、「わが人生、ロータリーを語る」というテーマで、ブロック内のクラブと会長交換スピーチを行いました。それこそ、他クラブの会長が最高のスピーチをしてくれるだけに、お互い張り合いもあったし、参考になることも多々ありました。ぜひ、試みてください。



### ●会員に最高の職業倫理基準を植え付ける例会

Guy Gundaker は、例会で道徳律（職業倫理訓）を読み上げたり、皆で暗唱したり、解説付きで話す機会を設けたりすることを推奨しています。今で言えば、「四つのテスト」や「ロータリーの目的」を皆で暗唱したりすることに相当します。私としては暗唱だけでなく、「四つのテスト」や「ロータリーの目的」の解説をする機会も設けて欲しいと思います。

## ●奉仕の扉を開く例会

Guy Gundaker の数多くの名言の1つに、「ロータリアンとは、奉仕能力の涵養を切望し、かつ奉仕に専念する人のことである」というのがあります。それは、「ロータリアンは、ロータリーの原理を体得するにつれて奉仕能力が向上するだけでなく、進んで奉仕したいという意欲が湧き上がり、奉仕に身を捧げるようになる」という意味です。その上で、彼は「奉仕とは、心の過程である。すなわち、奉仕すべき人と事とを行動に結びつける心の状態である」と述べています。まさに、奉仕を実践したいという「利他の心」そのものです。

奉仕の実践について、Guy Gundaker は「専門職務（医師、歯科医師、弁護士、広告のライターなど）に従事するロータリアンは、多少の個人差はあっても、普段から奉仕の実践をしていると言ってよいでしょう。しかし、同じロータリアンでも、従業員を多くかかえる企業主などは、全ての従業員にも奉仕の心を植え付けなければ奉仕の実践をしているとは言えません。しかも、何度でも繰り返し、植え付けていかなくてはならないのです」と述べています。



要するに、昼食例会は、クラブ会員が奉仕の心を学び、理解し、継続的に実践し、さらなる奉仕の意欲を湧き立てていく場でなくてはならないということです。それが、Guy Gundaker の言う「奉仕の扉を開く例会」という意味なのです。

## ●会員の事業に助力を与える例会

Guy Gundaker は、どんなクラブ組織（教育、人間性向上、健康増進、社交など）であろうと、同じ組織に属する者同士、商取引の機会はあるだろうと述べています。しかし、ロータリーでは、会員であるという理由だけで相互に商取引が増えるなどと考えるのはならないと戒めています。その上で、「例会は、親しみと友情の種が蒔かれ、それが育つ場である。そこに信頼と誠実に基づく真の友情が芽生えれば、商取引が増えるのは当然である」と述べているのです。すなわち、例会を真の友情が芽生える場にすれば、会員の事業に助力を与えるということにもなるというのが、Guy Gundaker の考えです。

クラブ入会の勧誘で、「入会すれば、それで商取引に繋がるとは思ってはいけません。しかし、入会して君の素晴らしさを会員の誰もが分かり、信頼と誠実に満ちた友情が芽生えれば、自然と商取引は増えるだろう。要は、君次第だ」と述べるのは、大いに結構でしょう。ロータリアン同士の取引は、奉仕の心を学び実践し、信頼と誠実に満ちた人間性、そこに育まれる友情の結果だということです。言い換えれば、「ロータリアンになれる人に、ロータリー入会を薦めなさい」ということです。

### ③夕刻の例会について

Guy Gundakerは、「夕刻の例会は、昼食例会より長い時間がとれるので、個々の会員の向上と個々の会員の事業の向上を達成するには一層良い機会である」と述べた上で、夕刻のプログラムは、より精選された素晴らしい話を中心にして構成するように推奨しています。

また、彼は夕刻の例会にふさわしい多数のプログラムを調べた結果として、企業の実績に関する話題、事務機器やファッションに関する話題、都市計画の話題、公共問題の検討などが重要視されていると報告しています。その上で、ロータリーは事業経営者の議会のようなものであることに留意すれば、迅速に議事を処理して、個々に提案されたすべての問題を慎重に審議しなければならないと述べています。その他、近隣のクラブ同士の訪問、祝祭日の記念祝典なども重要視されていると報告しています。さらに、通常12月に行われる家族例会はクリスマスを祝した慈善活動事業の一部となっていること、ロータリー創立記念例会はロータリーの話、またはロータリアン同士の討論会として行われていることなども報告しています。

Guy Gundaker は、新入会員の紹介は夕刻の例会で行うことを推奨しています。この場合、「クラブ会長は新入会員にロータリーの話をするのが習慣になっているが、これは例会に参加している会員一同に対しても、ロータリーの理想を喚起するという点で重要である」と述べています。私としては、新入会員を紹介する例会では、クラブ会長は少なくとも以下の3点を話して欲しいと思います。

- ロータリーは、「①ロータリアン同士の友情を基盤に、②価値ある奉仕をしている、③立派なロータリアンを育てている」世界的な団体です。勿論、価値ある奉仕の根幹は、職業奉仕です。
- “ロータリーの親睦”とは、ロータリーという苗木が成長するために、その根に栄養を与えてくれる土壌のようなものです。「ロータリアン同士の友情を基盤に」とは、そういう意味です。
- 新入会員の素晴らしさを会員の誰もが理解し、かつ信頼と誠実に満ちた友情が芽生えれば、ロータリーは充実した人生を約束してくれるでしょう。そのために、私はクラブ会長として最大限の援助をすることを、皆の前で約束します。

いずれにしても、全ての例会は、出席者が時間を割くに値する価値あるものでなければなりません。特に夕刻の例会では、クラブ会員がロータリーの高い理想と意欲に燃えて、「自分の仕事、自分の業界、自分の家庭、自分の町や州や国に対して優れた奉仕をしよう」という決意を新たにしないものでなければならず、Guy Gundaker は強調しているのです。

(2018年5月7日 初稿 文責：鈴木一作)